

[シラバス 目次]

【発展科目】

<心理関連科目群>

心理学研究法特論	28
臨床心理学研究法特論	29
障害児・者心理学特論	30
神経生理心理学特論	31
臨床発達心理学特論	32
健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	33
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	34
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	35
産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	36
生涯発達心理学特論	37
教育心理学特論	38
臨床心理学特論Ⅰ	39
臨床心理学特論Ⅱ	40
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	41
臨床心理面接特論Ⅱ	42
臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）	43
臨床心理査定演習Ⅱ	44
臨床心理基礎実習	45
臨床心理展開実習（心理実践実習A）	46
臨床心理応用実習A（心理実践実習B）	47
臨床心理応用実習B（心理実践実習C）	48
臨床心理実習A（心理実践実習D）	49
臨床心理実習B	50
臨床動作法特論	51
保護者支援特論	52

授 業 科 目 名 (英語名)
心理学研究法特論 (Special Seminar on Methodology of Psychology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	金・2	村上裕樹、中里直樹
【授業のねらい】 心理学研究における主要な研究法を詳述するとともに、実際の学術論文を精読することで、国際的に最先端の研究に触れる。また、研究知見についてディスカッションをし、研究を発展させる創造力を身につける。					
【具体的な到達目標】 ・心理学におけるさまざまな研究法について説明することができる。 ・内外の心理学論文を読解し、研究としての特徴・意義・課題を説明することができる。 ・心理学の研究知見についてディスカッションをし、研究を発展させるアイデアを提案できる。					
【授業の内容】 第1回：心理学研究法概説（村上） 第2回：分散分析を使用した研究①：理論と方法（村上） 第3回：分散分析を使用した研究②：論文の分析と討議（村上） 第4回：相関分析を使用した研究①：理論と方法（村上） 第5回：相関分析を使用した研究②：論文の分析と討議（村上） 第6回：生理学的指標を使用した研究①：理論と方法（村上） 第7回：生理学的指標を使用した研究②：論文の分析と討議（村上） 第8回：生理学的指標を使用した研究③：論文の分析と討議（村上） 第9回：因子分析を使用した研究①：理論と方法（中里） 第10回：因子分析を使用した研究②：論文の分析と討議（中里） 第11回：重回帰分析を使用した研究①：理論と方法（中里） 第12回：重回帰分析を使用した研究②：論文の分析と討議（中里） 第13回：パス解析を使用した研究①：理論と方法（中里） 第14回：パス解析を使用した研究②：論文の分析と討議（中里） 第15回：パス解析を使用した研究③：論文の分析と討議（中里） ☆学生がより深く学ぶための工夫 心理学研究法に関する能動的な調べ学習やグループ・ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。					
【時間外学習】 ディスカッションに備え、文献の精読を必要とする。					
【教科書】 なし。適宜資料を配布する。					
【参考書】 講義中に適宜紹介する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業内の討議や活動への積極的参加（50%）、レポート（50%）					
【注意事項】 積極的に議論に参加し、自分の意見を述べること。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のためのA群科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理学研究法特論 (Special Seminar on Methodology of Clinical Psychology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	木・3	武内珠美、渡邊亘、溝口剛
【授業のねらい】 臨床心理学およびその関連領域における代表的な研究方法について学ぶ。特に、質的研究を中心としつつ、質的研究と量的研究を組み合わせた手法についても取り上げる。また、最近の臨床心理学研究の動向を踏まえ、適切な研究テーマの選択、研究テーマにもとづいた問題の設定、適切な研究方法の選択、研究計画の立案についても具体的に考える。					
【具体的な到達目標】 ・臨床心理学的研究および質的研究の視点を理解できる。 ・代表的な臨床心理学的研究の手法について、その意義と実施法を理解できる。 ・文献や先行研究の検索・選択・整理、研究論文の書き方について理解できる。 ・学位論文に向けて基本的な構想をまとめることができる。					
【授業の内容】 第1回：臨床心理学研究の概説（量的研究と質的研究）（武内） 第2回：Mixed 研究（武内） 第3回：面接調査法とK J 法（武内） 第4回：複線径路・等至性モデル（武内） 第5回：グラウンディッド・セオリー・アプローチ（GTA）と修正版グラウンディッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）（武内） 第6回：ナラティブ・アプローチについて（溝口） 第7回：社会構成主義について（溝口） 第8回：質的研究法の理論的前提について（溝口） 第9回：質的研究法の諸アプローチについて（溝口） 第10回：質的研究法の論文作成（溝口） 第11回：事例研究方法の方法論的位置づけ（渡邊） 第12回：事例研究方法の進め方（渡邊） 第13回：事例研究論文の書き方（渡邊） 第14回：事例研究論文に関する討議（渡邊） 第15回：学位論文の研究計画について（渡邊） ☆学生がより深く学ぶための工夫 論文の収集と分析、討議を行う。					
【時間外学習】 「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は授業において指示する。					
【教科書】 なし。資料は授業中に配付する。					
【参考書】 「臨床心理学研究の技法」 下山晴彦 福村出版					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への積極的参加（50%）、レポート（50%）。					
【注意事項】 なし。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のためのA群科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
障害児・者心理学特論 (Special Seminar on Psychology for Adults & Children with Disabilities)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	火・2	河野伸子、池永恵美
【授業のねらい】 本授業では、医療、福祉、心理等の視点から発達障害児・者が抱える困難を総合的に理解した上で、臨床心理学的に支援するための方法について学ぶことを目的とする。また、支援方法として特に集団心理療法的アプローチについて学び、集団心理療法の基礎的理論及び、実際の支援方法について体験的に学び、理解を深める。					
【具体的な到達目標】 ・発達障害児・者が社会生活の中で抱える様々な困難を心理・医療・福祉の切り口を総合して理解することができる。 ・発達障害児・者に対する集団心理療法的アプローチの概要・意義について説明することができる。 ・発達障害児・者に対する集団心理療法における心理的支援・介入を実施することができる。					
【授業の内容】 第1回：発達障害児・者の抱える困難とは（1）乳幼児期・学齢期 第2回：発達障害児・者の抱える困難とは（2）思春期・青年期以降 第3回：集団心理療法の基礎（1）概要（治療機序と治療要因） 第4回：集団心理療法の基礎（2）個人心理療法と集団心理療法の違い 第5回：集団心理療法の基礎（3）種々の集団心理療法について 第6回：集団心理療法の基礎（4）対象者の選定、プログラム立案の視点 第7回：集団心理療法の基礎（5）活動における工夫・配慮とは 第8回：集団心理療法の展開（1）発達障害児・者への集団心理療法の適用とその意義 第9回：集団心理療法の展開（2）集団場面でのクライエントの行動の理解と参加者間の相互作用 第10回：集団心理療法の展開（3）セラピストの役割 第11回：集団心理療法の展開（4）問題場面へのセラピストの介入 第12回：集団心理療法の展開（5）グループの運営・管理の視点 第13回：集団心理療法の展開（6）グループの発達を理解する 第14回：集団心理療法の実践上の留意点 第15回：授業のまとめと振り返り ☆学生がより深く学ぶための工夫 実際に発達障害者の集団心理療法に参加し、集団心理療法について体験的に学びを深める。					
【時間外学習】 集団心理療法に関する書籍・論文に目を通すこと					
【教科書】 なし					
【参考書】 適宜指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への積極的参加（50％）、レポート（50％）					
【注意事項】 なし					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するD群科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
神経生理心理学特論 (Special Seminar on Neuropsychology and Psychophysiology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	火・4	村上裕樹
【授業のねらい】 神経・生理心理学における国際的に最先端の研究に触れ、最新の知見を学ぶ。さらに実際の研究論文を精読し、その知見についてディスカッションすることで、研究を発展させる創造力を身につける。					
【具体的な到達目標】 ・神経・生理心理学におけるさまざまな領域の知見について説明することができる。 ・内外の神経・生理心理学論文を読解し、説明することができる。 ・神経・生理心理学の研究知見についてディスカッションし、研究を発展させるアイデアを提案することができる。					
【授業の内容】 第1回：神経生理心理学概説 第2回：皮膚電気活動を指標に用いた研究 第3回：心拍を指標に用いた研究 第4回：心拍変動性を指標に用いた研究 第5回：血圧を指標に用いた研究 第6回：コルチゾールを指標に用いた研究 第7回：免疫グロブリンAを指標に用いた研究 第8回：炎症性サイトカインを指標に用いた研究 第9回：認知課題における脳画像研究 第10回：情動反応に関する脳画像研究 第11回：脳刺激法を用いた研究 第12回：ニューロ・フィードバックを用いた研究 第13回：大脳辺縁系の損傷例に関する研究 第14回：前頭前野の損傷例に関する研究 第15回：島皮質の損傷例に関する研究 ☆学生がより深く学ぶための工夫 神経・生理心理学に関する能動的な調べ学習やグループ・ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。					
【時間外学習】 ディスカッションに備え、文献の精読を必要とする。					
【教科書】 なし。適宜資料を配布する。					
【参考書】 講義中に適宜紹介する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業内の討議や活動への積極的参加（50%）、レポート（50%）					
【注意事項】 積極的に議論に参加し、自分の意見を述べること。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のためのB群科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床発達心理学特論 (Special Seminar on Clinical Developmental Psychology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	金・1	河野伸子

【授業のねらい】

人のこころの発達、身体的発達、認知的発達、社会的発達などが相互に関連しながら、周囲とのかかわりの中で変化していく過程であり、様々な視点から発達理論が構築されている。臨床心理学的な諸問題に関して、発達過程という観点から見直すことは、周囲との関係性の中で個人のこころのあり様がどのように形成され、現在の問題につながっているのかを理解することにつながる。この授業では、人のこころの発達と精神病理について、理論家がどのように理論を構築してきたのか、そして、実際の事例の中で、それらの理論がどのように臨床心理学的理解と支援につながっているかを学ぶ。

【具体的な到達目標】

- ・さまざまな発達の理論について学び、説明することができる。
- ・臨床心理学的な諸問題に対して、発達過程という観点から、支援の方向性について具体的に考察し、説明することができる。

【授業の内容】

第1回：発達心理の基礎理論とその発展 (Piaget、Vygotsky、Erikson、Freud など)

第2回：Bowlby の理論

第3回：Bowlby の理論を使った事例理解

第4回：Mahler の理論

第5回：Mahler の理論を使った事例理解

第6回：Klein の理論

第7回：Klein の理論を使った事例理解

第8回：Winnicott の理論

第9回：Winnicott の理論を使った事例理解

第10回：Kernberg および Masterson の理論

第11回：Kernberg および Masterson の理論を使った事例理解

第12回：Kohut の理論

第13回：Kohut の理論を使った事例理解

第14回：Stern および Fonagy の理論

第15回：Stern および Fonagy の理論を使った事例理解

☆学生がより深く学ぶための工夫

レポートおよび発表を課す中で省察や調べ学習を促す。また、事例を提示することにより、具体的な学びを促す。

【時間外学習】次の時間に学習する内容や資料について、あらかじめ精読してくる。

【教科書】適宜授業時間中に提示するが、基本的には、各理論家の著書、翻訳本、その理論を使った事例論文などを各自で探す。

【参考書】適宜授業時間中に提示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業内の討議や活動への積極的参加 (50%)、最終レポート (50%)

【注意事項】なし。

【備考】この科目は臨床心理士受験資格取得に関するB群科目である。

授 業 科 目 名 (英語名)
健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践) Special Seminar in Health Psychology (Theory and Practice for Mental Health Education)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	集中	上野徳美
【授業のねらい】 心の健康問題と健康教育、ストレスマネジメントなどについて、健康心理学の今日的なトピックスも取り上げながら考える。心の健康の維持増進や、健康教育、ストレスの軽減や対処能力などに関する理論と実際について講義し、議論する。また、講義中でとりあげる心理的健康のテーマに関して、医療、福祉、心理の専門家がどのように協力して支援を展開していくことができるかについても考える。講義とグループ発表、討議などにより授業を進める。					
【具体的な到達目標】 ・健康心理学の今日的な役割や課題、心の健康教育と心理社会的ストレスに関する主な理論を習得する。 ・心の健康の維持増進やストレスマネジメントの実際について学び、実践的知識とスキルを高める。 ・健康心理学の視点や方法論を自身の健康観の醸成や心身健康の維持増進に役立てられるようにする。					
【授業の内容】 第1回：健康心理学の役割と課題 第2回：現代社会のストレスと心の健康 第3回：ストレスと健康の障害 第4回：ストレスと性格・パーソナリティ 1 第5回：ストレスと性格・パーソナリティ 2 第6回：レジリエンスと心の健康 1 第7回：レジリエンスと心の健康 2 第8回：健康生成論と SOC (首尾一貫感覚) 1 第9回：健康生成論と SOC (首尾一貫感覚) 2 第10回：外傷性ストレスと心の健康 1 第11回：外傷性ストレスと心の健康 2 第12回：バーンアウトの予防と対策 1 第13回：バーンアウトの予防と対策 2 第14回：アサーションとコミュニケーション力 1 第15回：アサーションとコミュニケーション力 2 ☆学生がより深く学ぶための工夫 上記の内容に関する文献・資料の調査やまとめなど（詳細は別途指示する）					
【時間外学習】 集団心理療法に関する書籍・論文に目を通すこと					
【教科書】 なし					
【参考書】 大竹恵子編著(2016). 保健と健康の心理学 ナカニシヤ出版 Abramowitz, J.S. (高橋祥友監訳) (2014). ストレス軽減ワークブック 金剛出版 平野真理(2015). レジリエンスは身につけられるか 東京大学出版会 山崎喜比古編(2008). ストレス対処能力 SOC 有信堂 久保真人(2004). バーンアウトの心理学 サイエンス社 平木典子(2015). アサーションの心 朝日新聞出版社 McGonigal, K. (神崎朗子訳) (2015). スタンフォードのストレスを力に変える教科書 大和書房					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への参加態度 (70%)、レポート (30%)					
【注意事項】 上記の内容に関する取り組み 30%、試験 70% (レポート 40%、発表 30%)。					
【備考】 この科目は公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) (Special Seminar in Forensic and Criminal Psychology (Support Theory and Applications in Forensics and Criminology Area))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	集中	宇都宮敦浩
【授業のねらい】 司法・犯罪分野における根拠法令や関係法令について基礎的な知識を身に付け、法的な枠組みや各種司法制度について理解を深めるとともに、犯罪心理学、犯罪精神医学、犯罪社会学、少年非行等に関する犯罪理論や再犯防止のための処遇、リスクアセスメント、心理テストの活用、鑑別と鑑定、加害者家族への支援と現状等の各論について学び、司法・犯罪分野に関する理論と支援について学習する。					
【具体的な到達目標】 ・ 司法・犯罪領域において生じる問題及びその背景について説明できる。 ・ 司法・犯罪領域における心理社会的課題とその心理的支援のあり方について説明できる。 ・ 司法・犯罪臨床における心理職のあり方ならびに関係機関との連携について説明できる。					
【授業の内容】 第1回：司法・犯罪分野における各種専門職（家庭裁判所調査官、法務技官等）の概要及び他職種・多職種連携 第2回：少年法と関連する法律の概要 第3回：統計資料に基づく非行・犯罪動向の概観 第4回：犯罪・非行のメカニズム①～古典的犯罪理論、精神分析学派、社会心理学派等 第5回：犯罪・非行のメカニズム②～発達の視点からの犯罪理論、情緒障害理論、対人成熟理論等 第6回：犯罪・非行のメカニズム③～最新の犯罪理論に基づいた再犯防止対策 第7回：犯罪社会学から見たアプローチ 第8回：薬物依存者についての理解と集団療法 第9回：女性犯罪の特徴と支援を巡って 第10回：少年鑑別所における心理臨床 第11回：性犯罪者のリスクアセスメントと処遇 第12回：犯罪被害者支援 第13回：加害者家族の現状と支援 第14回：矯正施設における心理テストの活用事例 第15回：非行・犯罪ケースの事例検討 ☆学生がより深く学ぶための工夫 能動的な調べ学習やグループディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。					
【時間外学習】 上記内容に関する課題（詳細は別途指示する）。					
【教科書】 使用しない。適宜資料を配布する。					
【参考書】 講義中に適宜紹介する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への取り組みおよびライディング（60%）、最終レポート（40%）					
【注意事項】 なし					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するC群科目であり、公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開) (Special Seminar on Clinical Psychology in School (Support Theory and Practice in School Life))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	水・1	武内珠美
【授業のねらい】 学校等の教育領域において心理支援を実践するにあたり必要となる専門的な理論や支援技法を学ぶ。具体的には、教育現場の特徴および現状や課題を概観した後、スクールカウンセラーが学校で行う相談支援、あるいは心理専門職が学校と連携して行う支援について事例を中心に学ぶ。さらに、心理・福祉・医療を見渡した「総合的学校臨床」のあり方についても考える。					
【具体的な到達目標】 ・学校臨床に関する専門的な理論や支援技法および学校教育に関する法律について理解を深めること。 ・幼児、児童生徒、保護者、教師や学校コミュニティ、関係機関・関係者への関与について理解するとともに、「チーム学校」の理念に基づく心理支援のあり方について考えを深めること。 ・いじめ、不登校、発達障害、子どもの貧困・虐待、保護者対応、事件・事故・災害時における危機介入等、学校臨床における今日的な課題とその取り組みについて理解を深めること。 ・教職員、スクールソーシャルワーカー、関係機関との協働や多職種連携について理解を深めること。 ・心理・福祉・医療の融合を踏まえた「総合的学校臨床」について理解すること。					
【授業の内容】 第1回：学校臨床とは（学校教育に関する法律／学校心理専門職／校種の違いと発達段階の視点） 第2回：学校臨床において求められる基本的資質（倫理／理解の作り方／相談支援のあり方／連携・協働等） 第3回：いじめ（1）小学校における事例検討 第4回：いじめ（2）中学校・高等学校における事例検討 第5回：不登校（1）幼児・小学校における事例検討 第6回：不登校（2）中学校・高等学校における事例検討 第7回：発達障害（1）幼児・小学校における事例検討 第8回：発達障害（2）中学校・高等学校における事例検討 第9回：虐待（1）幼児・小学校における事例検討 第10回：虐待（2）中学校・高等学校における事例検討（性的虐待を含む） 第11回：事件・事故時における総合的危機介入の事例検討 第12回：災害時における総合的危機介入の事例検討 第13回：その他の子どもたちの課題の事例検討（非行、薬物使用、夜間徘徊、摂食障害、ネット依存等） 第14回：保護者や家族に対する相談支援 第15回：教師や学校に対する支援（コンサルテーション／クラス経営や学年経営・学校経営／一人一人を理解する視点） ☆学生がより深く学ぶための工夫 Problem Based Learning として、事例を用い実践的に深く学ぶ。そのために専門用語等について能動的に調べ学習を行うことをすすめる。					
【時間外学習】 授業の進行にあわせて指示する。					
【教科書】 「教育臨床の実際」第2版 武内珠美ほか ナカニシヤ出版					
【参考書】 適宜紹介する。事例論文をよく選んでくこと。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への積極的な参加（50%）、レポート（50%）					
【注意事項】 教育現場で活動することをイメージしながら授業に臨むこと。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するC群科目であり、公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) (Special Seminar on Industrial and Organizational Psychology (Support Theory and Practice in Industry and Labor Area))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	火・1	岩野卓
【授業のねらい】 産業・労働分野における問題や心理職の活動内容を理解し、実践できるようになることを目指します。具体的には、ストレスチェックやハラスメントといった産業・労働分野の観点から、心理職が関わる問題を理解し、医療的なケアや福祉的援助への接続を含め、必要な支援を立案・試行することをねらいとします。					
【具体的な到達目標】 ・産業・労働分野において心理職が関わる問題を理解できる ・産業・労働分野における心理職の支援内容や実践の内容を理解する ・実際の産業・労働分野における問題を解決するための計画立案や技法の活用を試みることができる これらの目標を達成することで、心理学的問題に対する高度な支援を展開することのできる専門的知識や実践力を取得し、産業・労働場面における現代的課題を発見し解決することのできる理論や技能の修得を目指します。さらに、産業・労働という観点から医療や福祉の支援を考えられるようにします。					
【授業の内容】 第1回：産業・労働心理学の概要 第2回：職場のメンタルヘルスの実情 第3回：職場のメンタルヘルス対策 第4回：休職とリワーク（復職支援プログラム） 第5回：ハラスメント 第6回：ストレスチェックとストレス関連問題 第7回：キャリアカウンセリング 第8回：職場における精神疾患 第9回：職場における精神疾患 第10回：パフォーマンス・マネジメント 第11回：ワークエンゲイジメント 第12回：職場における4つのケア 第13回：職場のコミュニケーション 第14回：管理者研修 第15回：これからの産業・労働分野の心理学 ☆学生がより深く学ぶための工夫 事例問題を提示し、実際に支援計画を立てます。また、面談場面を想定してロールプレイを行います。					
【時間外学習】 授業内にて課題を与えるので、各自で情報収集し、まとめてもらいます。					
【教科書】 なし。資料を配布します。					
【参考書】 大西守・廣尚典・市川佳居（2017）新訂版職場のメンタルヘルス 100 のレシピ 金子書房					
【成績評価の方法及び評価割合】 レポート（20%）、事例に対する対応計画作成（40%）、ロールプレイ（40%）					
【注意事項】 受講生の希望や理解を反映するため、講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。また、実際にロールプレイをしてもらいます。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するC群科目であり、公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。					

授 業 科 目 名 (科目の英分名)					
生涯発達心理学特論 (Special seminar of life span developmental psychology)					
必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	集中	石倉健二
【授業のねらい】 人間の一生涯を通した発達を概観し、それぞれの発達段階における課題と支援に関する発達心理学及び発達臨床心理学的な知見と方法を習得することを主なねらいとする。					
【具体的な到達目標】 ・ 一生涯にわたる発達に関する心理学の知見を理解できる。 ・ 生涯発達における諸問題を理解し、その支援や援助のあり方を考察できる。					
【授業の内容】 第1回：発達心理学について：発達段階、心理的課題と支援 第2回：前言語期の発達課題と支援①：運動と感覚・知覚の発達 第3回：前言語期の発達課題と支援②：共同注意関連行動の発達 第4回：幼児期の発達課題と支援①：自己と情動の発達 第5回：幼児期の発達課題と支援②：生活動作と社会的スキル 第6回：学齢期の発達課題と支援①：学習面での育ちとつまずき 第7回：学齢期の発達課題と支援②：人間関係の育ちとつまずき 第8回：思春期の発達課題と支援①：非社会的行動と反社会的行動 第9回：思春期の発達課題と支援②：学生相談、カウンセリング 第10回：成人期の発達課題と支援①：神経発達症群における二次障害 第11回：成人期の発達課題と支援②：キャリア選択、家庭を築く 第12回：壮年期の心理的課題と支援①：人生の転機と生殖性 第13回：壮年期の心理的課題と支援②：中高年の危機と支援 第14回：老年期の心理的課題と支援①：加齢と成熟 第15回：老年期の心理的課題と支援②：老化の影響 ☆学生がより深く学ぶための工夫 自主的な調べ学習、レポート作成、およびグループディスカッションを活用して深い学びに導く。					
【時間外学習】 課題についての調べ学習とレポート作成					
【教科書】 なし。適宜資料を配布する。					
【参考書】 特に指定はしません。領域・テーマごとに発達心理学に関する書籍・論文は紹介します。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への積極的参加（質問など）15%、調べ学習にもとづくレポート25%、最終レポート60%					
【注意事項】 特になし					
【備考】 特になし					

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
教育心理学特論 (Special seminar of educational psychology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	集中	古城和敬

【授業のねらい】

発達、学習、動機づけ、教育評価、学級集団、学校カウンセリング、および障害児（者）の理解と指導など、教育の過程に関するさまざまな教育心理学的な知見と方法を習得するとともに、福祉健康科学の専門職として教育に対する深い理解と教育実践の指導力を身につけることを目的とする。

【具体的な到達目標】

- ・教育の過程に関する教育心理学の理論と方法を理解できる。
- ・教育における諸問題を理解し、その克服のための指導のあり方を考察できる。

【授業の内容】

第1回：教育心理学の性格と課題
 第2回：教育心理学の研究法①：調査法
 第3回：教育心理学の研究法②：実験法
 第4回：発達と教育
 第5回：学習の理論と過程
 第6回：学習の動機づけ
 第7回：教育評価の意義と目的
 第8回：教育評価の方法と実践
 第9回：学級集団の過程と構造
 第10回：学級集団の理解の方法
 第11回：学級経営
 第12回：学校カウンセリングの理論
 第13回：学校カウンセリングと生徒指導
 第14回：障害児（者）の理解と指導①：障害の概念と障害児の理解
 第15回：障害児（者）の理解と指導②：障害児の指導の実践

☆学生がより深く学ぶための工夫

自主的な調べ学習、レポート作成、およびグループディスカッションを活用して深い学びに導く。

【時間外学習】課題についての調べ学習とレポート作成

【教科書】なし。適宜資料を配布する。

【参考書】特に指定はしません。領域・テーマごとに教育心理学に関係する書籍・論文は紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業への積極的参加（質問など）20%、調べ学習にもとづくレポート30%、最終レポート50%

【注意事項】なし

【備考】なし

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理学特論Ⅰ (Special Seminar on Clinical Psychology I)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	前期	水・2	武内珠美、渡邊亘、溝口剛
【授業のねらい】 心理臨床活動の根幹を成し、心理専門職となるために必ず理解しておかねばならない事項を詳述する。例えば、心理専門職の独自性と専門性、不可欠な資質や知識、倫理、学びと成長のプロセス、社会・地域における役割などである。これらは、心理専門職の訓練過程の最初期に習得すべきもつとも基礎的な内容であり、かつ学派（理論的立場）の違いや活動領域（医療、教育等）の違いを超えて共通する普遍的な事項である。					
【具体的な到達目標】 ・心理臨床の根源にある理念やスキーム、基本的な知識を消化し、心理専門職としてのあり方や使命、求められる役割について理解できる。 ・心理臨床および心理専門職の専門性と独自性について理解できる。 ・心理専門職としての学びや訓練、成長過程について理解した上で、自らが取り組むべきことを明確にできる。					
【授業の内容】 第1回：心理専門職の職務・職域・職業倫理・基本的資質（武内） 第2回：心理専門職の職業アイデンティティと訓練過程（武内） 第3回：心理専門職の社会的役割と課題（武内） 第4回：個人への理解づくりと関係性づくり（武内） 第5回：個人面接からケース・マネジメントについて（武内） 第6回：心理臨床を学ぶということ（渡邊） 第7回：心理専門職と心理臨床の歴史（渡邊） 第8回：心理専門職の中核的な機能・役割とその意味（渡邊） 第9回：心理臨床の専門性と独自性（渡邊） 第10回：心理臨床における抑圧モデルと解離モデル（渡邊） 第11回：経験の組織化と対人関係①：日常（溝口） 第12回：経験の組織化と対人関係②：ケース（溝口） 第13回：経験の組織化と対人関係③：スーパービジョン（溝口） 第14回：経験の組織化と対人関係④：理論（溝口） 第15回：経験の組織化と対人関係⑤：イメージ・ことば（溝口） ☆学生がより深く学ぶための工夫 レポートを課し、省察や調べ学習を促す。また、支援の事例を提示し、具体的な学びを促す。					
【時間外学習】「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は授業において指示する。					
【教科書】「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎ほか 誠信書房 「精神分析的心理療法の手引き」 鐘幹八郎（監） 誠信書房					
【参考書】授業において指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 討議への積極的参加（50%）、レポート（50%）。					
【注意事項】受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。					
【備考】この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理学特論Ⅱ (Special Seminar on Clinical Psychology Ⅱ)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	後期	月・3	河野伸子、池永恵美、飯田法子
【授業のねらい】 心理臨床においてはさまざまな領域において多様なアプローチが用いられている。本授業では、「臨床心理学特論Ⅰ」で学んだ基礎を踏まえ、応用的なアプローチについてとりあげる。					
【具体的な到達目標】 ・多様な領域やアプローチについて、その基本的知識や特性について説明することができる。 ・臨床心理学の基礎知識を発展させ、多様な応用的アプローチについて理解している。					
【授業の内容】 第1回：マインドフルネス療法の概説（河野） 第2回：マインドフルネス療法の応用領域（河野） 第3回：マインドフルネス療法の実践（呼吸法／食べる瞑想）（河野） 第4回：マインドフルネス療法の実践（動きのある瞑想／静坐瞑想）（河野） 第5回：マインドフルネス療法を心理専門職としての学びに活かす（河野） 第6回：集団心理療法の基礎（池永） 第7回：心理劇における役割理論と役割の発展段階（池永） 第8回：心理劇の5要素について（池永） 第9回：心理劇の技法を深める（ダブル）（池永） 第10回：心理劇の技法を深める（ロール・リバーズ／ミラー）（池永） 第11回：アタッチメント・愛着（飯田） 第12回：子育ての総合的支援（飯田） 第13回：離婚問題への心理支援（飯田） 第14回：女性への心理支援（飯田） 第15回：震災と心の支援（飯田） ☆学生がより深く学ぶための工夫 実践的な内容を取り入れることで、体験的な理解を促す。また、レポートを課すことで、自身の体験を省察し、より理解を深める手立てとする。					
【時間外学習】 「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は授業において指示する。					
【教科書】 なし。資料は適宜配布する。					
【参考書】 「サイコドラマの技法」高良聖 岩崎学術出版社 他、適宜授業時間中に呈示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業内の討議や活動への積極的参加（50％）、レポート（50％）					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理学特論Ⅰの単位を取得した者に限る。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践) (Special Seminar on Clinical InterviewⅠ (Theory and Practice of Psychological Support))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	前期	月・2	渡邊亘、岩野卓
【授業のねらい】 心理専門職の主要な活動の一つである面接による心理支援（心理療法）について、学派の違い、要支援者の年齢や心理的な健康度の違い、支援の場や領域の違いを超えて共通する基本的理論および技法を学んだ上で、力動論的アプローチや認知行動論的アプローチ等を習得することを目的とする。また、事例等の臨床素材による討議を行い、学びの高度化・具体化を進める。					
【具体的な到達目標】 ・心理療法の実践に際して必要となる、基本的な理論・技法・姿勢などを理解すること ・心理に関する相談・助言・指導等の進め方を習得するとともに、支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することについて理解を深めること。					
【授業の内容】 第1回：心理療法とは：定義と歴史（渡邊） 第2回：基本的な関わりと倫理（渡邊） 第3回：力動論的アプローチ：①目的（渡邊） 第4回：力動論的アプローチ：②方法（渡邊） 第5回：力動論的アプローチ：③プロセス（渡邊） 第6回：力動論的アプローチ：④事例にふれる（渡邊） 第7回：力動論的アプローチ：⑤効用と限界（渡邊） 第8回：認知行動論的アプローチ：①目的（岩野） 第9回：認知行動論的アプローチ：②方法（岩野） 第10回：認知行動論的アプローチ：③プロセス（岩野） 第11回：認知行動論的アプローチ：④事例にふれる（岩野） 第12回：認知行動論的アプローチ：⑤効用と限界（岩野） 第13回：その他のアプローチ：①解決志向アプローチ（岩野） 第14回：その他のアプローチ：②ヘルピング・スキル（岩野） 第15回：心理療法の未来（岩野） ☆学生がより深く学ぶための工夫 レポートを課し、省察や調べ学習を促す。また、支援の事例を提示し、具体的な学びを促す。					
【時間外学習】授業の進行に合わせて適宜指示する。					
【教科書】「新版 心理臨床家の手引き」 鏑幹八郎ほか 誠信書房 「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」 坂野雄二ほか 北大路書房					
【参考書】「精神分析的な心理療法の手引き」 鏑幹八郎ほか 誠信書房 「山上敏子の行動療法講義 with 東大・下山研究室」 山上敏子ほか 金剛出版					
【成績評価の方法及び評価割合】 討議への積極的参加（50％）、レポート（50％） 特に事例検討やディスカッションに主体的・積極的に参加し、検討を継続的に深化し、自らの知として高めて行くことを重視する					
【注意事項】受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。					
【備考】この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理面接特論Ⅱ (Special Seminar on Clinical Interview II)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	後期	月・2	渡邊 亘
【授業のねらい】 臨床心理士の主要な活動の一つである面接による心理支援（心理療法）について、「臨床心理面接特論Ⅰ」で習得した基本的内容をより実践的な水準に高めていく。特に、発達段階、人格水準、援助の場といったことに即した支援のあり方や工夫について学びを深める。					
【具体的な到達目標】 ・要支援者の問題の性質や発達段階、支援の場（病院、学校、福祉機関など）に応じた支援の工夫や配慮について理解し、説明できる。					
【授業の内容】 第1回：児童期の心理療法（遊戯療法）：①概要 第2回：児童期の心理療法（遊戯療法）：②目的と方法 第3回：児童期の心理療法（遊戯療法）：③プロセス 第4回：児童期の心理療法（遊戯療法）：④事例にふれる 第5回：思春期・青年期の心理療法：①概要 第6回：思春期・青年期の心理療法：②目的と方法 第7回：思春期・青年期の心理療法：③事例にふれる 第8回：成人期・中年期の心理療法：①概要 第9回：成人期・中年期の心理療法：②目的と方法 第10回：成人期・中年期の心理療法：③事例にふれる 第11回：重篤な問題への支援：①人格障害の場合 第12回：重篤な問題への支援：②精神病圏の場合 第13回：重篤な問題への支援：③事例にふれる 第14回：場を意識した支援 第15回：まとめ・心理面接に関する今後の展望 ☆学生がより深く学ぶための工夫 レポートを課し、省察や調べ学習を促す。また、支援の事例を提示し、具体的な学びを促す。					
【時間外学習】 授業の進行に合わせて適宜指示する。					
【教科書】 「精神分析的心理療法の手引き」 鐘幹八郎（監） 誠信書房					
【参考書】 「臨床心理学大系」 金子書房 「臨床心理学全書」 誠信書房					
【成績評価の方法及び評価割合】 討議への積極的参加（50％）、レポート（50％） 特に事例検討やディスカッションに主体的・積極的に参加し、検討を継続的に深化し、自らの知として高めて行くことを重視する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）の単位を取得した者に限る。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理査定演習 I (心理アセスメントに関する理論と実践) (Seminar on Assessment of Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Assessment))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	前期	火・1	溝口剛
【授業のねらい】 心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている投影法については、他の性格検査とバッテリーを組んだ模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に複数の性格検査を組み合わせて実施し、結果を整理し、所見を書く作業を重ねることを通して、高度に実践的なパーソナリティのアセスメント能力を養成する。					
【具体的な到達目標】 ・性格検査（投影法を中心とした性格検査；ロールシャッハ・テスト、SCT、描画法、YG、GHQ、TEG など）を正しく施行し、適切に結果を整理し、総合的に解釈する実践的能力を身につける。 ・検査データから根拠をもってパーソナリティをアセスメントする高度な専門的能力を養う。 ・結果を報告書の形で適切に記述し、支援に結び付けることのできる高度な実践的能力を身につける。					
【授業の内容】 第1回：投影法における検査者―被検査者関係ならびに日常生活との連続性 第2回：模擬事例①の呈示[課題：スコアリング] 第3回：模擬事例①のスコアリング確認 [課題：集計、所見作成] 第4回：模擬事例①の解釈（所見発表） 第5回：模擬事例②の呈示[課題：スコアリング] 第6回：模擬事例②のスコアリング確認 [課題：スコアリング修正] 第7回：模擬事例②のスコアリング確認 [課題：集計、所見作成] 第8回：模擬事例②の解釈（所見発表） 第9回：投影法を中心とした性格検査の実施と分析・解釈 第10回：パーソナリティのアセスメントを施した事例①の発表・討論 第11回：パーソナリティのアセスメントを施した事例②の発表・討論 第12回：パーソナリティのアセスメントを施した事例③の発表・討論 第13回：パーソナリティのアセスメントを施した事例④の発表・討論 第14回：パーソナリティのアセスメントを施した事例⑤の発表・討論 第15回：事例検討 ☆学生がより深く学ぶための工夫 受け身的に講義を受講するのではなく、学生自らが実際に検査を実施し、結果を整理し、所見を書く作業、あるいは講義中の討論を通して、高度に実践的なアセスメント能力を養成する。					
【時間外学習】 事例については、授業時間外に各自で協力者に心理検査を依頼・実施し、分析・所見作成の上順次授業で発表していく。					
【教科書】 片岡安史 1987 改訂新・心理診断法 金子書房／高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院					
【参考書】 コッホ、K. 岸本寛史・中島ナオミ・宮崎忠男（訳） 2010 バウムテスト第3版―心理的見立ての補助手段としてのバウム画研究― 誠信書房 馬場禮子 1995 ロールシャッハ法と精神分析―継起分析入門― 岩崎学術出版社					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への取り組み、課題遂行状況、発表・討論の状況（60％）、 ならびに自分が担当した事例についての最終レポート（40％）から総合的に評価する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。 質問紙法（TEG、GHQ、Y-G など）や投影法（描画法、SCT、ロールシャッハ・テストなど）の基礎は習得済みであること。					
【備考】 この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理査定演習Ⅱ (Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	後期	火・1	佐藤晋治、溝口剛、佐藤百合子
【授業のねらい】 心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている知能・認知機能検査については、提示される模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に知能・認知機能検査、適応行動や感覚に関する検査を実施し、結果を整理して所見を書く作業を重ねることを通して、被検者の発達のニーズの背景を総合的にアセスメントし、支援計画を提案していく高度に実践的な能力を養成する。					
【具体的な到達目標】 ・知能・認知能力検査(ウェクスラーファミリー、KABC-Ⅱ、DN-CAS など)、適応行動や感覚に関する検査 (Vineland-Ⅱ 適応行動尺度、CLISP-dd、感覚プロファイルなど) を正しく施行し、適切に結果を整理し、総合的に解釈する実践的能力を身につける。 ・検査データから根拠をもって発達のニーズの背景を総合的にアセスメントする高度な専門的能力を養う。 ・結果を報告書の形で適切に記述し、支援に結び付けることのできる高度な実践的能力を身につける。					
【授業の内容】 第1回：発達査定を総合的に解釈する実践的能力とは 第2回：模擬事例①の呈示[課題：スコアリング、結果の処理] 第3回：模擬事例①のスコアリング確認 [課題：結果の処理、所見作成] 第4回：模擬事例①の解釈 (所見発表) 第5回：模擬事例②の呈示[課題：スコアリング、結果の処理] 第6回：模擬事例②のスコアリング確認 [課題：結果の処理、所見作成] 第7回：模擬事例②の解釈 (所見発表) 第8回：知能・認知能力検査ならびに発達検査の実施と分析・解釈 第9回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例①の発表・討論 第10回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例②の発表・討論 第11回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例③の発表・討論 第12回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例④の発表・討論 第13回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例⑤の発表・討論 第14回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例⑥の発表・討論 第15回：発達ニーズに関するアセスメントを施した事例⑦の発表・討論 ☆学生がより深く学ぶための工夫 受け身的に講義を受講するのではなく、学生自らが実際に検査を実施し、結果を整理し、所見を書く作業、あるいは講義中の討論を通して、高度に実践的なアセスメント能力を養成する。					
【時間外学習】 事例については、授業時間外に各自で協力者に心理検査を依頼・実施し、分析・所見作成の上順次授業で発表していく。					
【教科書】 上野一彦・松田修・小林 玄・木下智子 2015 日本版 WISC-Ⅳによる発達障害のアセスメント 日本文化科学社、辻井正次・明畠 光宜・染木 史緒・伊藤大幸他(編集) 2014 発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 金子書房					
【参考書】 フラナガン、D.P 他 2014 エッセンシャルズ WISC-Ⅳによる心理アセスメント 日本文化科学社 ナグリエリ、J.A 2010 エッセンシャルズ DN-CAS による心理アセスメント 日本文化科学社 前川久男ほか 2017 日本版 DN-CAS の解釈と事例 日本文化科学社					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への取り組み (60%)、自分が担当した事例についての最終レポート (40%) から総合的に評価する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理査定演習Ⅰ(心理アセスメントに関する理論と実践)の単位を取得した者に限る。 知能・認知能力検査(ウェクスラーファミリー、KABC-Ⅱ、DN-CAS など)、適応行動や感覚に関する検査 (Vineland-Ⅱ 適応行動尺度、CLISP-dd、感覚プロファイルなど) の基礎は習得済みであること。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理基礎実習 (Basic Training in Clinical Psychology)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	通年	水・1	古賀精治、河野伸子、池永恵美、 佐藤百合子、渡邊晴美、四童子龍子、 姫島詩絵、岐部薫

【授業のねらい】

本授業では、臨床心理学の基本である面接について、基礎的知識や技法、必要なカウンセラーの態度、相談者の心理の理解、応答の仕方などの基本的事項について学習するとともに、学生間でのロールプレイ実習や模擬心理面接実習といった、実際の面接場面での対応を想定した実習・演習を通じて、実践的な能力を身につけることを目標とする。

【具体的な到達目標】

- ・クライエントの話を傾聴・理解し、応答する、といった臨床心理面接に関する基本的技法について説明できる。
- ・上記の技法を習得し、実施することができる。
- ・クライエントの心理状態に応じて、適切な応答の仕方を選択することができる。

【授業の内容】

【前半】

第1回：臨床心理面接の原則・倫理
 第2回：臨床心理面接における話の聴き方
 第3回：話の中の要素分析の練習（演習）
 第4回：話の中の要素分析の練習（解説）
 第5回：フィードバックの練習（演習）
 第6回：フィードバックの練習（解説）
 第7回：感情の反射（演習）
 第8回：感情の反射（解説）
 第9回：記録のとり方
 第10回：ロールプレイ記録による討議Ⅰ
 第11回：ロールプレイ記録による討議Ⅱ
 第12回：ロールプレイ記録による討議Ⅲ
 第13回：ロールプレイ記録による討議Ⅳ
 第14回：ロールプレイ記録による討議Ⅴ
 第15回：ロールプレイから学んだことについての全体討議

※各回2名ずつ
発表する

【後半】

第1回：クライエントの来談への期待と不安を理解する
 第2回：クライエントの訴えの背景にある気持ちを理解する
 第3回：感情と行動のつながりについて理解する（演習）
 第4回：感情と行動のつながりについて理解する（解説）
 第5回：沈黙の意味について考える
 第6回：クライエントの質問に対する応答の練習
 第7回：クライエントの自我の強さに応じた面接の方法
 第8回：心理臨床家に求められる資質とは
 第9回：模擬心理面接の実施について
 第10回：模擬心理面接の振り返りⅠ
 第11回：模擬心理面接の振り返りⅡ
 第12回：模擬心理面接の振り返りⅢ
 第13回：模擬心理面接の振り返りⅣ
 第14回：模擬心理面接の振り返りⅤ
 第15回：模擬心理面接から学んだことについての全体討議

※各回2名ずつ
発表する

☆学生がより深く学ぶための工夫

授業では講義形式ではなく、学生間の討論を中心に進める。またロールプレイ・模擬心理面接を取り入れ、体験的に学びを深める。

【時間外学習】事例検討などに積極的に参加すること。

【教科書】特に使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】適宜紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

授業内での課題の取り組みと討論（50%）、中間および最終レポート（50%）

【注意事項】受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。

【備考】この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理展開実習 (心理実践実習A) (Expansive Training in Clinical Psychology (Practical Training in Psychology A))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	通年	木・1	武内珠美、渡邊亘、溝口剛、河野伸子、 池永恵美、飯田法子、佐藤百合子、渡邊晴美、 姫島詩絵、岐部薫、西村薫

【授業のねらい】

心理教育相談室（学内実習施設）における支援活動に参画し、心理専門職の基本的姿勢、支援のプロセス（開始から終結まで）、支援の運営やマネジメント、状況の理解とそれに基づきとるべき対応、関係者との協力・連携といった支援業務の基礎を学ぶ。また、観察学習（経験者の面接への陪席等）に加え、心理教育相談室のクライアントに対する試行的な援助実践等を行うことで、具体的で実践的な技能を習得する。

【具体的な到達目標】

- ・心理教育相談室における援助のシステム・ルール・流れ等を把握し、相談の運営を理解することができる。
- ・要支援者への対応に関する基礎技能（電話対応、見立て、マネジメント、連携等）を体得する。
- ・心理専門職に必要な心構え・態度（クライアントのへ配慮、尊重、傾聴、共感、肯定的関心、心理学的理解、責任をもった役割遂行、関係者との連携・協働、常識的な態度等）を体得する。
- ・心理職になる上での自己の課題に気づき、その深化あるいは修正を進める。

【授業の内容】

第1回：オリエンテーション（心理支援のシステム、ルール、倫理と法的義務）

第2回：心理教育相談室での活動（電話対応）

第3回：心理教育相談室での活動（相談受付・聴き取り）

第4回：心理教育相談室での活動（問題の見立て）

第5回：心理教育相談室での活動（支援計画の策定）

第6回：心理教育相談室での活動（チームアプローチと連携）

第7回：心理教育相談室での活動（危機対応）

第8回：心理教育相談室での活動（環境と構造の整備）

第9回：試行的な援助実践（検査）

第10回：試行的な援助実践（面接や遊戯療法）

第11回：スーパービジョン

第12回：カンファレンスへの参加（事例発表）

第13回：カンファレンスへの参加（事例検討）

第14回：事例検討会

第15回：経験者の面接への陪席と指導

☆学生がより深く学ぶための工夫

「履修ガイド」や学習支援システム（moodle）を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。

【時間外学習】「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は実習において指示する。

【教科書】「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎ほか 誠信書房

【参考書】 実習において指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

上記の内容に関する取り組み（50%）、最終試験（50%）（レポート25%、口述試験25%）。

実習の進め方や注意事項は別途指示する。

【注意事項】受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。

公認心理師受験資格取得のために、この科目を含む全心理実践実習の総時間は450時間以上、また、実習において担当ケース（心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等）に関する実習時間は270時間以上（うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上）と定められている。

【備考】この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理応用実習 A (心理実践実習 B) (Advanced Training in Clinical Psychology A (Practical Training in Psychology B))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	3	1	通年	集中	武内珠美、渡邊亘、溝口剛、河野伸子、池永恵美、岩野卓、飯田法子

【授業のねらい】

教育分野および福祉分野の学外施設において、施設の取組を学ぶとともに、実習指導者等の指導を受けながら心理支援を担当し、心理専門職の実務を習得する。具体的には、当該分野の特徴や役割を踏まえつつ、心理学的理解と支援計画の策定、心理支援やチームアプローチの実際、多職種連携と地域連携、職業倫理及び法的義務といった内容について学ぶ。なお、教育分野の学外施設として教育支援センター(適応指導教室)、福祉分野の学外施設として児童相談所もしくは精神保健福祉センターにおいて実習を行う。

【具体的な到達目標】

- ・教育分野・福祉分野における心理専門職の実務について説明できる。
- ・指導者の指導の下で心理支援を実践するとともに、教育分野・福祉分野における要支援者に対する心理学的理解と支援、チームアプローチの進め方について具体的に理解することができる。
- ・教育分野・福祉分野における多職種連携や地域連携、職業倫理、法的義務といった事柄について、実践と関連づけながら理解することができる。

【授業の内容】

第1回：オリエンテーション（実習の目的と進め方・注意事項・倫理等）
 第2回：教育機関における実習（機関の長や施設指導者によるレクチャー）
 第3回：教育機関における実習（要支援者の理解）
 第4回：教育機関における実習（機関の主要な取組：不登校・いじめ・発達障害等）
 第5回：教育機関における実習（要支援者への心理支援）
 第6回：教育機関における実習（要支援者への心理支援）
 第7回：教育機関における実習（地域連携とチームアプローチ）
 第8回：教育機関における実習（まとめ・省察・今後の課題）
 第9回：福祉機関における実習（機関長や支援担当者によるレクチャー）
 第10回：福祉機関における実習（要支援者の理解）
 第11回：福祉機関における実習（機関の主要な取組：虐待・判定業務／ひきこもり・復職支援・デイケア等）
 第12回：福祉機関における実習（要支援者への心理支援）
 第13回：福祉機関における実習（要支援者への心理支援）
 第14回：福祉機関における実習（地域連携とチームアプローチ）
 第15回：福祉機関における実習（まとめ・省察・今後の課題）
 ☆学生がより深く学ぶための工夫
 「履修ガイド」や学習支援システム（moodle）を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。

【時間外学習】 「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は実習において指示する。

【教科書】 「新版 心理臨床家の手引き」 鑓幹八郎ほか 誠信書房

【参考書】 実習施設に関する関係資料等を配布する。詳細は実習において指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

上記の内容に関する実習への取り組み（50％）、毎回の実習報告書（25％）、まとめレポート（25％）
 実習の進め方や注意事項は別途指示する。

【注意事項】

受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。
 公認心理師受験資格取得のために、この科目を含む全心理実践実習の総時間は450時間以上、また、実習において担当ケース（心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等）に関する実習時間は270時間以上（うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上）と定められている。

【備考】 この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理応用実習 B (心理実践実習 C) (Advanced Training in Clinical Psychology B (Practical Training in Psychology C))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	2	通年	集中	武内珠美、渡邊亘、溝口剛、河野伸子、池永恵美、岩野卓、飯田法子
【授業のねらい】 医療分野の学外施設において、施設の取組を学ぶとともに、実習指導者等の指導を受けながら心理支援を担当し、心理専門職の実務を習得する。具体的には、当該分野の特徴や役割を踏まえつつ、心理学的理解と支援計画の策定、心理支援やチームアプローチの実際、多職種連携と地域連携、職業倫理及び法的義務といった内容について学ぶ。なお、医療分野の学外施設として精神科病院において実習を行う。					
【具体的な到達目標】 ・医療分野における心理専門職の実務について説明できる。 ・指導者の指導の下で心理支援を実践するとともに、医療分野における要支援者に対する心理学的理解と支援、チームアプローチの進め方について具体的に理解することができる。 ・医療分野における多職種連携や地域連携、職業倫理、法的義務といった事柄について、実践と関連づけながら理解することができる。					
【授業の内容】 第1回：オリエンテーション（実習の目的と進め方・注意事項・倫理等） 第2回：医療機関における実習（精神科医やコメディカル等によるレクチャー） 第3回：医療機関における実習（精神科外来陪席） 第4回：医療機関における実習（精神科外来陪席） 第5回：医療機関における実習（精神科カンファレンス、リエゾン） 第6回：医療機関における実習（精神科カンファレンス、リエゾン） 第7回：医療機関における実習（作業療法） 第8回：医療機関における実習（作業療法） 第9回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第10回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第11回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第12回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第13回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第14回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） 第15回：医療機関における実習（集団療法、デイケア、SST、CBT、マインドフルネス等） ☆学生がより深く学ぶための工夫 「履修ガイド」や学習支援システム（moodle）を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。					
【時間外学習】「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は実習において指示する。					
【教科書】 「新版 心理臨床家の手引き」 鎌幹八郎ほか 誠信書房					
【参考書】 実習施設に関する関係資料等を配布する。詳細は実習において指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 実習への取り組み（50%）、毎回の実習報告書（25%）、最終レポート（25%） 実習の進め方や注意事項は別途指示する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理士受験資格取得のための必修科目（一年次開講のもの）の全ての単位を取得した者に限る。 公認心理師受験資格取得のために、この科目を含む全心理実践実習の総時間は450時間以上、また、実習において担当ケース（心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等）に関する実習時間は270時間以上（うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上）と定められている。					
【備考】 この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理実習 A (心理実践実習 D) (Practical Training in Clinical Psychology A (Practical Training in Psychology D))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	2	通年	月・3(前) 火・2(後)	武内珠美、渡邊亘、溝口剛、河野伸子、 池永恵美、飯田法子、佐藤百合子、渡邊晴美、 姫島詩絵、岐部薫、西村薫
【授業のねらい】 心理教育相談室（学内施設）において具体的な心理支援の実践を学ぶ。特に、様々な年齢層の要支援者や様々な問題について多くの心理支援を担当しながら、心理学的理解、事例に適合した支援方略の策定と実施、医療や福祉をはじめとする他機関・他領域との連携、さらには職業倫理や法的義務に関する理解を実践レベルに落とし込むことをねらいとする。					
【具体的な到達目標】 ・心理支援や検査の実施について、より高度で実践的な内容を身につける。 ・対象者の状態や問題の性質、置かれた環境の特徴などを総合的に検討し、真に必要な支援について考えることができる。 ・連携やチームアプローチについて、また、倫理や法的義務について、支援実践との関連において理解を具体化できる。					
【授業の内容】 第1回：オリエンテーション（支援のシステム、ルール、倫理と法的義務） 第2回：電話等による初期対応 第3回：問題の見立て 第4回：支援方略の策定 第5回：心理面接の実施1（導入・初期のかかわり） 第6回：心理面接の実施2（展開・中期のかかわり） 第7回：心理面接の実施3（終結・後期のかかわり） 第8回：心理面接の実施4（助言、指導、ガイダンスによる介入技法） 第9回：心理検査の実施1（アセスメントバッテリーの組み方） 第10回：心理検査の実施2（適切な施行） 第11回：心理検査の実施3（結果の整理と解釈） 第12回：心理検査の実施4（フィードバックの進め方） 第13回：チームアプローチの実践 第14回：他職種連携・地域連携の実践 第15回：まとめ（省察及び成果と課題の明確化） ☆学生がより深く学ぶための工夫 「履修ガイド」や学習支援システム（moodle）を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。					
【時間外学習】 「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は実習において指示する。					
【教科書】 「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎ほか 誠信書房					
【参考書】 実習において指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 上記内容への取り組み（50%）、最終試験（50%）（レポート25%、口述試験25%） 実習の進め方や注意事項は別途指示する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理士受験資格取得のための必修科目（一年次開講のもの）の全ての単位を取得した者に限る。 公認心理師受験資格取得のために、この科目を含む全心理実践実習の総時間は450時間以上、また、実習において担当ケース（心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等）に関する実習時間は270時間以上（うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上）と定められている。					
【備考】 この科目は臨床心理士及び公認心理師受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床心理実習 B (Practical Training in Clinical Psychology B)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	2	通年	木・2	武内珠美、渡邊亘、溝口剛、河野伸子、 池永恵美、飯田法子
【授業のねらい】 心理教育相談室（学内実習施設）において具体的な心理支援の実践を学ぶ。特に、「臨床心理実習 A」で行った心理支援や検査について、スーパービジョンやカンファレンスなど、多様かつ綿密な指導を受け、心理学的理解や支援の実践に関してより適切で高度なスキルを身につける。また、自らの課題を発見し、その解決に向けて取り組みを重ねる。					
【具体的な到達目標】 ・心理支援や検査の実施について、より高度で実践的な内容を身につける。 ・対象者の状態や問題の性質、置かれた環境の特徴などを総合的に検討し、真に必要な心理支援について考えることができる。 ・自らの課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。					
【授業の内容】 第1回：オリエンテーション（指導の意味とシステム） 第2回：アセスメント・見立てに関する指導1（電話対応） 第3回：アセスメント・見立てに関する指導2（面接） 第4回：アセスメント・見立てに関する指導3（心理検査） 第5回：心理面接に関する指導1（導入・初期） 第6回：心理面接に関する指導2（展開・中期） 第7回：心理面接に関する指導3（終結・後期） 第8回：心理面接に関する指導4（助言、指導、ガイダンス） 第9回：チームアプローチに関する指導 第10回：他職種連携・地域連携に関する指導 第11回：事例検討1（事例発表） 第12回：事例検討2（事例検討） 第13回：経験者による支援実践への陪席 第14回：自らの課題に気づく 第15回：まとめ（省察及び成果と課題の明確化） ☆学生がより深く学ぶための工夫 「履修ガイド」や学習支援システム（moodle）を積極的に活用し、学習の成果と課題を明確にしつつ、系統的に学びを積み上げていくことを助ける。					
【時間外学習】 「授業の内容」に関する課題を課す。詳細は実習において指示する。					
【教科書】 「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎ほか 誠信書房					
【参考書】 実習において指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 上記内容への取り組み（50%）、最終試験（50%）（レポート25%、口述試験25%）。 実習の進め方や注意事項は別途指示する。					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生で、臨床心理士受験資格取得のための必修科目（一年次開講のもの）の全ての単位を取得した者に限る。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
臨床動作法特論 (Special Seminar on Dohsa-hou)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	金・4	古賀精治、池永恵美
【授業のねらい】 臨床動作法は、言語ではなく動作を媒介とする日本独自の非常にユニークな臨床心理学的援助技法である。本授業では、臨床動作法の理論や実践について講義・演習を行い、臨床動作法の実施に必要な知識を身につける。また基本的な援助者の態度や技術について学び、修得することを目的とする。					
【具体的な到達目標】 ・臨床動作法の概要・理論について説明できる。 ・臨床動作法と他の臨床心理学的援助技法とを比較し、その共通点や違い・独自性について説明できる。 ・対象者との動作課題を通じたコミュニケーションの中で、対象者について見立て、動作を通してコミュニケーションをとることができる。					
【授業の内容】 第1回：臨床動作法の理論と歴史 第2回：リラクセーション課題の意味 第3回：タテ系課題の意味 第4回：ひとの姿勢・動作を見立てる（座位・ひざ立ち） 第5回：ひとの姿勢・動作を見立てる（立位・歩行） 第6回：ひとの動作を援助するとは―臨床心理学的意義― 第7回：適切な援助について考える（目標設定、援助量、援助の仕方） 第8回：適切な援助について考える（共動作と共体験） 第9回：リラクセーション課題の実践（軀幹のひねり） 第10回：リラクセーション課題の実践（肩周りの弛め） 第11回：リラクセーション課題の実践（前屈） 第12回：リラクセーション課題の実践（腰周りの弛め） 第13回：タテ系動作課題の実践（座位） 第14回：タテ系動作課題の実践（ひざ立ち） 第15回：タテ系動作課題の実践（立位・歩行） ☆学生がより深く学ぶための工夫 実際に障害児者の方たちに協力していただき、臨床動作法実践の場を設ける。臨床動作法実践を通じて、臨床動作法を体験的・実践的に学び、理解を深める。					
【時間外学習】 動作課題についての理解を深めるため、学生同士で実技の実習をしておくこと。					
【教科書】 特になし。					
【参考書】 「臨床動作法」成瀬悟策 誠信書房 「基礎から学ぶ動作訓練」九州大学発達臨床心理センター編 ナカニシヤ出版					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業および課題への取り組み（50％）、レポート（50％）					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得のためのE群科目である。					

授 業 科 目 名 (英語名)
保護者支援特論 (Special Seminar on Support for Parents)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	金・2	武内珠美、河野伸子
【授業のねらい】 少子化、核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化し、家庭や地域における子育て機能の低下、虐待、貧困などの社会問題が生じている。また、発達障害などの障害をもつ子どもの子育てでは、困難を生じやすく、発達早期からライフステージ全体にわたる保護者支援が必要とされている。この授業では、保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、適切な支援および地域連携・多職種連携ができるよう、実践的な能力としてペアレント・プログラムを身に付けることを目的とする。					
【具体的な到達目標】 ・子育てをめぐる今日的課題と保護者支援の重要性について説明することができる。 ・保護者支援におけるペアレント・プログラムの目的および具体的進行について説明することができる。 ・個々の保護者支援における必要な心理的援助や問題解決の仕方を具体的に述べるることができる。					
【授業の内容】 第1回：子育てを取り巻く変化および今日的課題（武内） 第2回：保護者支援・子育て支援とは（武内） 第3回：保護者支援における心理的支援（武内） 第4回：虐待の予防と対応における保護者支援（河野） 第5回：発達障害をもつ子どもの保護者支援（武内） 第6回：貧困家庭における保護者支援（武内） 第7回：関係機関との連携・地域資源の活用（武内） 第8回：保護者支援・子育て支援におけるペアレント・プログラムの意義（武内） 第9回：ペアレント・プログラム1回目の目的および進行についての理解（河野） 第10回：ペアレント・プログラム2回目の目的および進行についての理解（河野） 第11回：ペアレント・プログラム3回目の目的および進行についての理解（河野） 第12回：ペアレント・プログラム4回目の目的および進行についての理解（河野） 第13回：ペアレント・プログラム5回目の目的および進行についての理解（河野） 第14回：ペアレント・プログラム6回目の目的および進行についての理解（河野） 第15回：ペアレント・プログラムフォローアップの目的と進行についての理解とその後の支援（河野） ☆学生がより深く学ぶための工夫 前半部分は、事例等を用いた学習を通じて具体的な理解を深め、後半部分はペアレント・プログラムを実践することにより、理解を深める。					
【時間外学習】 次の時間に学修する内容や資料について、あらかじめ精読および準備してくる。					
【教科書】 講義中に紹介する。					
【参考書】 講義中に適宜紹介する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 毎回の学習態度、発表内容、討議への参加、レポート（70%）最終レポート（30%）					
【注意事項】 受講は臨床心理学コースの大学院生に限る。					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するE群科目である。					